

第1回協働推進委員会記録

| | |
|-----|---|
| 日時 | 令和元年7月4日(木) 18:30~20:30 |
| 会場 | 豊明市民交流センター 多目的ルーム |
| 出席者 | 委員：青山孝司、小池田忠、都築晃、松下正夫、松永充生、三矢勝司、横山孝三 (以上7名) 豊明市：市長、市民協働課長、協働推進担当係長、協働推進係職員(1名) 傍聴者4名 |

議 事

1 市長あいさつ

2 委嘱状交付

3 自己紹介

4 委員長・副委員長の選任

委員長の選任について、三矢委員が推薦され、承認された。

副委員長として、三矢委員から根尾委員が指名された。事務局から根尾委員に意向を確認したところ、快諾していただいた。

3 報告事項

(1) 令和元年度のスケジュールについて

- ・資料1に基づき、事務局より提案。

資料1に加えて、適宜、唐竹小学校跡施設の利活用についての情報提供をおこなっていく。

(2) 協働ラベリング調査の結果について

- ・資料2に基づき、事務局より報告。
- ・市民ニーズに込えているのかを調査したことはあるか。
⇒ ないため、今後検討していく。
- ・2→3に協働レベルを上げるためには？という意識を職員にもってもらうための手法でもある。
- ・今後は、経年変化を読み取り分析を深めていく必要がある。
- ・Before→Afterを意識して分析を深める。
- ・協働レベル5は「丸投げ」状態ではないのか。
⇒ 今後「丸投げ」状態になっていないかを事務局で確認をする。
- ・協働レベルを上げるだけでなく、市民ニーズに基づいた解決を図ろうと思うと、引き算が求められる(協働レベルを下げる)場合もある。

(3) 市民交流センターについて ～唐竹小学校跡施設の活用について～

- ・資料3に基づき、事務局より説明（青山委員より補足）。
- ・センター職員に対しての要望としては、夜の時間帯や日曜日にも人がいてほしい。
- ・唐竹小学校跡施設の活用について、直営か指定管理かは未定。
 - ⇒ 直営ではセンター業務が窮屈になるのでは。
 - ⇒ 緑区では学区連絡協議会が指定管理を受けているが、柔軟な方法で施設を管理している。
- ・運営委員会から担当部署（企画政策課）へ要望は伝えたほうが良い。
- ・ハコの管理はパワーがいるため、疲弊してしまうセンターもある。
 - ⇒ 本筋の業務（中間支援機能）ができるという前提でハコの管理も担ったほうが良い。
 - ⇒ バランスを慎重に考える必要がある。

4 協議事項

(1) 第2次協働推進計画について

- ・資料4に基づき、事務局より説明。
- ・概要版について、中間支援機能の輪に「個人」や「ボランティア」を含めてほしい。
 - ⇒ 住民一人ひとりが問題意識をもっておこなう
- ・数値のみではなく、質の評価が必要。

【地域社会活動団体力向上講座事業】

- ・「〇〇ができるようになった」等が成果であるため、それを追跡調査する必要がある。
 - ⇒ 検討したのち、追跡調査を実施する予定。

【市民活動情報サイト活性化事業】

- ・そもそもサイトが使いづらい場合がある。
- ・使いたいサイトかどうかの問題意識を持つことが大切。
- ・市民活動総合補償制度が目的で登録をしている団体が多い。
- ・市民が使いづらいサイトになっていると思う。
- ・団体検索サイトと、情報発信サイトを分けて考えるのも有りなのでは。

5 その他

第2回協働推進委員会は、会議内容を調整後、改めて日程調整する。